



タクシーが来ない！

週末、畑仕事に通う山梨市牧丘町はぶどうの一大産地で“巨峰の丘”として知られるが、近年、巨峰からシャイン・マスカットへの転換が急で、既にシャイン・マスカットの生産量が巨峰の生産量を上回った。ぶどうの生産は維持されているものの、生産者の高齢化は著しく、担い手不足は顕著で、どこも援農する人の確保に四苦八苦しているのが実情だ。人口は減少を続け、町の中心部にある商店街は多くがシャッターを下ろし、週末、客が出入りしてにぎわいを見せるのは、ワイナリーである三養醸造ぐらい▼この牧丘町に最近、衝撃が走った。町に1軒だけ残ったタクシー会社が廃業した。バスがないことはないが、日に何本かしかかないため、住人にとっては車が不可欠で、ずいぶんと高齢になっても車を運転せざるを得ない人も多い。高齢化するほど運転は慎重になるようで、ゆつくりしたスピードで走る車も多く、その車の後に何台もの車が数珠つなぎとなって走っているのによく出くわす。それでもまだ自ら運転できる人はいい。運転免許を返却しても、家族に運転できる人がいない人はタクシーを利用するしかない。タクシーは住民のなくてはならない足として、長年にわたって地域貢献してきた。それがいつも電話で予約を受け付けていたおばあちゃんの孫が戻ってきて、社長に就任して間もなくの廃業であった。その理由はわからない▼町外のタクシー会社に連絡しても、山登りの客の予約が入っている等々で、タクシーの手配はなかなか難しくなった。町中の衣料品店は、廃業前からのようではあるが、連絡があれば車を出してお客の送り迎えをしているという。お互いに助け合ってカバーしていくしかないが、そうは言ってもなかなか。これでは人口はさらに減少していくばかりだ。

(土着菌)